

# 医用心理学

【単位数: 1単位, 授業13コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

宮本 淳 教授(心理学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(I-2-c, I-5-c, II-5-c)

- ① コンピテンスの“プロフェッショナリズム”における「全人的対応」のための感性を高めるために、心理学を通して自己理解・他者理解を深め、良好な“コミュニケーション”についての見識を深める。
- ② 人の行動と心理を理解するための基本的な知識と考え方を学ぶ。また、心理的な問題、カウンセリングや心理療法に関する基本的な知識を身につけ、他者を適切に理解し、思いやりを持って接するための視野を広げる。

### (2) 学修目標

- ① 対人関係における心理学の基本的な理論を説明できる。
- ② 様々な動機や動機づけの概念について説明できる。
- ③ 防衛機制について理解し、具体例を踏まえた説明ができる。
- ④ カウンセリングや心理療法について、それぞれの治療理論の説明ができる。
- ⑤ 様々な心理的不適応状態について、その状態像、及び対応の仕方についてそれぞれ説明できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	75%	多肢選択問題を原則とし、一部記述式問題を含む場合がある。
復習課題	○	25%	学習内容の定着・応用のための復習課題をAIDLE-Kにて毎回行う。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は、10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

再試験は定期試験に準ずる方法で実施する。評価対象の合計が60%以上で合格とする。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正答率の低かった問題、理解が不十分と思われた問題についてはAIDLE-Kに掲載する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

#### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
資料・レジュメ配付			

#### 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
医療系のための心理学	櫻村正美 野村俊明	講談社	医療に関係した心理学の基礎知識がまとった「心理学」のテキストである。
行動医学テキスト	日本行動医学会	中外医学社	行動科学科目との関連事項を学ぶことができる。

#### 6 準備学習（予習・復習）

- ① 予習として、授業に臨むにあたり、参考図書などにて次回内容のキーワードについて簡単な知識を得ておくこと（1コマあたり約1時間）。
- ② 復習として、配付された資料・レジュメを参照し、講義後に内容を再確認しておくこと（1コマあたり約1時間）。

#### 7 授業計画

##### （1） 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論などのアクティブ・ラーニングを導入する。

##### （2） 講義の内容

医用心理学の導入として、日常例も豊富である対人関係とコミュニケーションに関する分野である社会心理学について学ぶ。後半では臨床心理学を学ぶことで様々な心理的不適応状態について、その状態像、及び対応の仕方について理解を進めていく。